

令和7年5月 定例教育委員会会議録

〈 開会 9時30分 〉

開 催 日	令和7年5月16日（水）9時30分～11時00分		
開 催 場 所	半田市役所 庁議室		
出 席 委 員	教 育 長 榊 原 雅 晃 委 員 新 美 大 委 員 桂 優 子	委 員 堀 崎 隆 資 委 員 久 米 宏 和 委 員 正 村 日 登 美	
説 明 の た め 出 席 し た 職 員	教 育 部 長 森 田 知 幸 主 任 指 導 主 事 木 下 稔 章 生 涯 学 習 課 長 青 木 美 希 ス ポー ツ 課 主 幹 河 合 信 二 博 物 館 長 関 正 樹	学 校 教 育 課 長 内 藤 誠 給 食 セ ン ター 所 長 榊 原 秀 夫 ス ポー ツ 課 長 門 田 和 博 図 書 館 長 藤 井 寿 芳 新 美 南 吉 記 念 館 長 遠 山 光 嗣	
事 務 局	学校教育課総務担当主査 羽根 広		
報 告 事 項	■協議事項 （１）第２次教育大綱の中間見直しについて ■報告事項 （１）寄附、後援願等について （２）令和6年度重点取組事項に対する取組及び評価について （３）児童生徒（園児）の交通事故・問題行動等について （４）旧学校給食センター解体工事（週休2日）請負契約の締結について （５）令和7年度地区公民館職員の異動について （６）半田市図書館協議会委員の任命について （７）令和7年度図書館の休館について （８）各種事業について ①映画音楽コンサート～あの名作がオーケストラでよみがえる～ ②「音楽で巡る！ワールドツアーin 半田」 ③畳でコンサート～0歳からのクラシック～ ④市内小学校プール開放事業 ⑤亀崎図書館「おたのしみ会」 ⑥企画展「終戦80年 半田の戦争記録」 ⑦連続古文書講座		
各課事務連絡	学校教育課、学校給食センター、図書館		

＜議事録＞

1. 前回の会議録の承認	(事務局) 4月定例会の会議録について概要説明 → 承認
2. 教育長報告	(教育長) 4月24, 25日、伊勢市で開催された東海北陸都市教育長協議会に行かせていただいた。初日は総会、事例研究発表及び分科会(学校教育部会)に、2日目は視察研修に参加した。分科会では亀山市の教育長が提案されていたが、不登校対策、外国籍児童生徒への対応、生活困窮家庭の支援、児童生徒のメンタルヘルスケアなど、半田市の抱える課題とも深く関わる内容であり、どの都市でも共通の課題があること、半田市の取組みの方向性が間違っていないことが確認できた。同時に、半田市の取組みの中での至らない点についても気づかせていただくことができ、今後に生かしていきたい。閉会後に亀山市の教育長と直接意見交換させていただいたが、半田市のことが大好きで新美南吉記念館にも来られたことがあるとのことで、非常にありがたく感じるとともに、教育関係者には新美南吉のファンがたくさんいることも改めて実感できた。 27日、半田少年少女合唱団総会と半田鉄道少年団入団式に参加した。いずれも伝統のある団体で、長年、関係者のみなさんが高い志を持ち続けており敬意を表したい。 30日に幼稚園PTA連絡協議会総会が、5月1日に半田市PTA連絡協議会が開催された。近年とかくPTAの存在意義が問われることが多いが、子どもの健やかな成長という共通の目標を持って保護者と教職員が手を取り合う組織の存在意義を確認する旨の話をさせていただいた。役員になってよかったと思える活動をしていただけたらと思う。 3日、亀崎潮干祭りが開催された。亀崎中学校長だったとき以来、5年振りに参加したが、市内各学校の教職員が見に来ていたり、亀崎中学校生徒によるアナウンスがあったり、教育関係のみなさんががんばっている姿が見られ、誇らしく思う。 9日、今年度最初の学校訪問が宮池小学校であった。子どもたちも先生方も前向きにがんばっている姿が見られた。低学年からタブレットを活用していて感心した。全体会で話をする際には、若い先生の背筋が伸びて話を聞く姿勢を取っており、こちらも気が引き締められた。
3. ■協議事項 1) 第2次教育大綱の中間見直しについて	(学校教育課長) 今年度、教育大綱の中間見直しが実施される。 教育大綱の策定主体は市長で、企画部企画課が事務局となり、総合教育会議で協議の上、策定に至るというものだが、教育に関することであるため、教育委員会が見直し案の作成を担う。 本日は、見直しにあたってのスケジュールと、見直し方針について説明する。

	スケジュールとしては、6月に総合教育会議で見直し方針について協議し、その後、方針に基づいて具体的な見直し案を作成、9月の定例教育員会で見直し案についてご説明させていただく。その上で、10月に総合教育会議を開催、見直し案を協議、いただいた意見を反映させて、完成という流れである。 次に、見直し方針については3点ある。 1点目は、見直しにあたり、国の教育振興基本計画の中の基本方針の部分及び県の教育大綱を参考・斟酌する。 2点目は、昨今の社会情勢の変化等を捉えた内容とする。 3点目は、基本的には、現在の大綱の構成や体系はそのままとする。 参考として、現・半田市教育大綱、国の計画の概要版、愛知県の教育大綱を添付しているのでご確認ください。 (教育長) ご意見等ないようなので、提案のスケジュール及び方針に沿って案を作成するので、委員の皆さまもご協力ください。
■報告事項 1) 寄附、後援願等	(学校教育課長) ・寄附 2件 ・後援名義使用許可 22件
2) 令和6年度重点取組事項に対する取組及び評価	(主任指導主事) 令和6年度の半田市の重点取組事項について、幼稚園、小中学校が行った評価をまとめた。アルファベット・数字の横に付いている記号は、令和5年度の数値と比較した増減を表している。 「幸せになるための教育」への評価は、小学校で少し上がったが、中学校では変わらず、ともにB評価となっている。幸せ教育の実質2年目の学校の取組として、各校で様々な活動を工夫し、幸せについて考える機会を持とうとする意識が見られた。一方で、ハッピーウィークの取組以外に、継続した活動の必要性が挙げられた。また、教職員全体で幸せ教育の共有が十分でないという課題も挙がっている。 「ふるさと半田、地域」に関する項目については、幼稚園、小学校中学校ともに高い評価だった。その中で、中学校の郷土学習については、C評価となっている。中学校では、コロナ禍以降、地域と連携した郷土学習の取組に課題を感じている。また、地域との連携が難しい状況もあり、評価しにくい状況もある。今回の評価のまとめも、学校ごとの評価であるので、中学校は6校と少ない数での評価まとめであるため、1校の評価が全体に大きく影響するという実態もある。 「命を大切に作る」活動について。命に関する学習は、幼稚園では小動物の飼育や栽培活動を通して、命の成長や喜びを感じられる活動ができていること、小中学校では、関係機関との連携による出前授業の充実や教育相談活動の充実により、高い評価となっている。

「キャリア教育」を中心とした夢を育む活動では、幼稚園の評価が高い状況にある。小中学校では、新たな教育である「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」「協働的な学び」などへの研究が進んでいるが、これまでの教育を大きく転換することは難しく、高い評価がされにくい状況にある。

「心身の健康や体力の向上」について。小中学校では、夏の暑さ対策や中学校部活動の地域移行などが影響してか、評価は伸びていない。特に中学校の体力の向上について、学校部活動が貢献していたことも考えると、今後、取組の工夫をしていく必要性が感じられる。

また、評価を行う上で、園や学校単位での評価まとめになると、1園、1校の回答が大きく影響することもあるという課題も見られる。そこで、令和7年度の評価方法について、園、学校単位から教員単位での評価に変えることを検討している。評価の観点も示して、同じ基準で各園、各校の比較ができるようにも配慮する。

現場の一人一人の教員の考えを反映させたまとめにすることで、次年度への改善に向けた取組みをいっそう充実させていきたい。

続いて、幸せになるための教育についてさらに細かいデータによる評価を示す。児童生徒の「幸せ教育」への取組意識、教職員の「幸せ教育」への取組意識、教職員の「指導時間・心のゆとりの確保」の三点とも、小学校より中学校の方が、数値が低い傾向にある。

また、次頁は今年度の「幸せになるための教育」への取組内容になる。「幸せ教育」への取組意識は、小中学生と教職員で8割を超える評価結果が出ているが、時間の確保や心のゆとりの確保については、6割～7割ということで、この点の改善に向けては課題が残る結果となっている。

（正村委員）

“（1）②の新美南吉作品に触れる機会を積極的につくります”の評価で、園児には内容理解が難しいことが課題としてあがっているが、園児にもわかるようにするには先生方への教育が大事だと思う。新美南吉記念館にも協力いただいて、知るよりも感じることを大事だという視点で何かできないだろうか。こういったことを幼児教育で育めれば、小中学校にも生きてくると思うので、また考えていただきたい。

例えば、貝殻忌のイベントで、つばさ幼稚園の園児が南吉作品の「貝殻」を歌う。内容は理解しなくても、言葉のシャワーを浴びることは成長に繋がり、それが古典や古文にも繋がっていくかもしれない。

（主任指導主事）

南吉作品の理解となると、やはり園児には難しい。小学校の低学年においても同様であり、作品に込められた思いや理解よりも、作品に触れ

る楽しさを知ってもらえるような工夫が必要だと思う。新美南吉記念館にも支援していただきながら、各園・各学校で幼い頃から作品に触れることについて意識して取り組んでいきたい。

（新美南吉記念館長）

知ることよりも感じることが大事というのは、昨年開催したレイチェル・カーソンの企画展をご覧いただいたことだと思う。レイチェル・カーソンは「知ことは、感じることの半分も重要ではない」という言葉を残しており、これは、単に自然について知識を得るだけではなく、自然を直接感じ、その美しさや神秘さに心を動かすことが重要だという意味である。

（正村委員）

この言葉はすごく自分の心にも響いたので記憶していた。まずは感じる。作品に触れることで、子どもたちの心に響くものがあるかもしれない。

（教育長）

学校や幼稚園の先生は、分からせようとする傾向にある。南吉作品に限らず様々な場面で、解釈して理解させようとしてしまう。分からせようとすることに一生懸命になり、楽しくなくなってしまうことはよくある。

知ることより感じる。これは、私にも響くものがあった。幼児教育は遊びが中心だが、小学校へ上がると遊びがなくなって授業になる。そうすると、先生方は分からせようとする。感じることに繋がるよう、学校でも遊びの要素を取り入れるのは大事だと思う。

（桂委員）

幼稚園のキャリア教育における幼保小中接続について。子どもたちが小学校へ上がったときに困らないように、小学校の先生方に、幼稚園の学びを知って欲しい。幼稚園は、小学校への接続について意識されていることが分かる記載だが、小学校は幼稚園や保育園からの接続をどう捉えて、評価しているか。また、小学校から中学校にも必要な情報は伝えられると思うが、中学校がどこまで受け止めてくれているのか心配している。実際に関わる担当の先生同士がやり取りする機会が増えていくと思う。

令和6年度の幸せになるための教育の取組についてのアンケート結果が示されているが、令和5年度からの変化はどうか。

（主任指導主事）

前年度の数字が手元がないので正確にはお答えできないが、資料を作成するときに、数字が１年で１０％近く変化している学校があって驚いた。先生も児童生徒も年度ごとに入れ替わるので、要因は推測しかねるが、一つ考えられるのは評価の観点の違い。例えば、高い意識の先生は評価が厳しくしてしまうなど、回答者の感覚に差異があるためばらつきがあると考えられる。次年度に向けて、何をもって評価するのかの基準をしっかりと伝えていきたい。

幼保小中連携の大切さについては、どの学校も理解している。ただ、担任の先生方の連携は時間的なことで大変難しいのが実情である。自分の授業もある中で別の学校・園に行くことになるので現場レベルでの連携は十分にできておらず、各学校からも課題として聞いている。各学校の主任等の代表者は連携を深めているが、校内で共有したとしても担当者が同じ水準まで理解することは難しい。どのようにして実施していくのがよいのか、検討していきたい。

（堀崎委員）

私が小学校の校長を務めていたときに、幼稚園に何度か先生を派遣したことがある。何かお手伝いできることがあるかもしれないので、このことで困ったら声をかけてください。

（学校教育課長）

先ほどの桂委員のご質問、アンケートの昨年度の数字についてお答えする。小学校がＢ評価の３．１。中学校がＢ評価の３．０。小学校が０．１上がってはいるが、横ばいと言える。

（教育長）

幼保小中連携については、キャリア教育の構想の中で架け橋プログラムを重点的に取り扱う部会を立ち上げて重点的に取り組む動きもある。

（新美委員）

“「幸せになるための教育」を考えて実現していく”の項目については、昨年度は手探りの中で始まり理解が深まる前に１年が終わってしまったかもしれないが、今回は２年目であり、昨年度と比較してホップステップと伸びていくのかと思っていた。ところが現状は横ばい、かつ、３．０はＢ評価の一番下であり、取組みが進んでいないのかなというのが率直な感想である。

ハッピーウィークで集中的に取り組むのはいいことだが、このときだけ取り組めばいいと思ってしまっている先生がいなか心配している。教育長が学校訪問等で「先生方が幸せになって、子どもたちも通いたくなる学校を作ってほしい」とよく話をされるが、本当のその通りだと思

	う。まずは先生方が自分の幸せについて考えていくことが必要。横ばいとなっているこの数字はやや残念だ。 (主任指導主事) 確かにB評価とあるが、これは各学校まとめたの評価の平均であり、各学校がどのようにまとめているのかは把握していない。また、評価の基準でAは“十分達成した”、Bは“ほぼ達成した”であり、Aをつけるということは児童生徒が「幸せになった」ということでもあると解釈して、つけにくかった先生もいたと思う。ただ、新美委員が言われたように、子どもたちを幸せにできたかどうかではなく、幸せになるための教育を考え、実践できたかの評価であり、職員が意識して取り組めたかが本当に大事。校長を始めとした管理職、現場の職員みんなが日頃から意識していないといけない。これが見直し後の観点の基準の一つ。次に、これを受けて自分で何らかの取組みを継続的に行えたかが一つ。最後に、継続的に行ったことに対して振り返り、評価することができたかが一つ。この三つができていたら自信を持ってA評価をつけていただければいい。 来月、今後はこういった観点でA B C Dの評価をつけてくださいと学校側にも伝える。まずは実態を正確に捉え、深掘りして議論できればと考えている。 (教育長) 先生方の意識が変わらないと子どもには伝わらない。先生方の意識が変わるためには、教育委員会が変わらないといけない。学校訪問のたびに、主任指導主事は幸せについて触れて話をしている。我々も高い意識を持つ必要を感じている。 (桂委員) 各学校で実施する学校評価アンケートの評価項目であれば、経年の変化を見やすいのではないかと。数字だけを見ると、先生がやれたと思っていると子どもたちの意識も高い傾向にあり、先生方が働きかけたことが子どもたちにも伝わっていると言えるのではないかと。やはり、先生方の意識が高まれば、子どもたちの意識も変わると思う。				
3) 児童生徒(園児)の交通事故・問題行動等	(指導主事) 令和7年4月19日～令和7年5月12日の交通事故・問題行動等について。 交通事故：4件 <table> <tr> <td>4月19日(土)</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>5月1日(木)</td> <td>1件</td> </tr> </table>	4月19日(土)	1件	5月1日(木)	1件
4月19日(土)	1件				
5月1日(木)	1件				

	5月 2日（金） 2件 問題行動（被害）等：3件 4月10日（木） 1件 4月24日（木） 1件 5月 1日（木） 1件 交通事故以外の事故：1件 4月24日（木） 1件 学校等被害等：2件 4月18日（金） 1件 4月28日（月） 1件 不審者情報：2件 4月22日（火） 1件 4月24日（木） 1件
4）旧学校給食センター解体工事（週休2日）請負契約の締結	（給食センター所長） 前回、事務連絡でお伝えさせていただいたが、先日行われた市議会5月臨時会において、旧学校給食センター解体工事に係る請負契約締結についての議案が可決されたので報告する。 請負契約金額は、1億3千596万円。 請負契約者は、北村組有限会社 名古屋支店。 この解体工事には、学校施設環境改善交付金という国の補助金を活用することを予定しており、交付決定後でないと本契約を締結することができないため、今後のスケジュールとしては、令和7年6月6日に着工し、令和8年3月10日に完了することを予定している。
5）令和7年度地区公民館職員の異動	（生涯学習課長） 2つの公民館で主事の異動があった。 西成岩公民館主事の安藝定氏が、自己都合により4月末をもって退任された。突然のことであり、後任については現在区と調整している。 続いて、岩滑公民館主事の森則孝氏が5月末をもって退任される。もともと退任予定があったが、4月から館長不在となったことや、4月からの新しい主事に引継ぎをするため、5月末の退任となった。これで、岩滑公民館は主事3名のみとなり、館長代理は引続き近藤みさき氏が務める。
6）半田市図書館協議会委員の任命	（図書館長） 図書館協議会は、図書館法に基づき設置され、図書館の運営に関し館長の諮問に応じるとともに図書館方針について館長に意見を述べる機関になる。委員については、半田市立図書館条例の規定により、学校教育及び社会教育の関係者等から教育委員会が任命することとされている。委員の任期は2年であり、昨年度改正の年であったため、本年度は団体の代表者変更などにより4人の方を新たに委員として任命する。

7) 令和7年度 図書館の休館	(図書館長) 例年のこととなるが、蔵書整理のため、特別整理期間として休館する。期間は令和8年1月28日から2月の4日までの8日間。根拠や利用者の対応等については資料のとおり。
8) 各種事業について ①映画音楽コンサート～あの名作がオーケストラでよみがえる ②「音楽で巡る！ワールドツアーin 半田」 ③畳でコンサート～0歳からのクラシック～	(生涯学習課長) ①セントラル愛知交響楽団による映画音楽コンサートが6月7日に瀧上工業雁宿ホールで開催される。洋画テーマ曲やジブリメドレーなど、皆さんも聞きなじみのある曲が多いかと思う。 ②これまで、セントラル愛知交響楽団が瀧上工業雁宿ホールで演奏会を開催していたが、地域にセントラルという名前や音を届けられていなかったのもので、地域に出ていこうという発想で、音楽で巡る！ワールドツアーin 半田として新たに取り組むもの。3つの公民館と半田空の科学館の計4か所で音楽を届ける。 各公民館で国のテーマを決めて、それにちなんだ曲を演奏する。さらに、音楽だけではなく「まちなかでアート」とタイアップして、工作や体験などができるよう工夫をしている。 ③畳でコンサート～0歳からのクラシック～は、毎年実施しているもので、赤ちゃん連れのご家族から非常に好評で、毎回予約がすぐに埋まってしまう。6月の最終土曜日に開催する。
④市内小学校プール開放事業	(スポーツ課長) 毎年実施しているもので、今年も夏休み期間中にプールを開放する。今は各学校に開放できる学校を募集している段階。開放できる学校が決まれば、そこを利用する団体を募集する。 対象や参加料、申込み方法は資料の通りで、周知は市報や市ホームページで行っていく。
⑤ 亀崎図書館 「おたのしみ会」	(図書館長) 6月21日にパネルシアターを亀崎図書館で行うもの。出演は、日頃から協働しているきりんの会やおつひサポーター（乙川東小学校で活動されてる団体）。
⑥企画展「終戦80年 半田の戦争記録」 ⑦連続古文書講座	(博物館長) ⑥今年の企画展は、6月21日（土）から8月31日（日）までの間、「終戦80年 半田の戦争記録」として開催する。 第二次世界大戦の終結から、今年で80年を迎える。半田市では、昭和20年7月、アメリカ軍による2度の大規模な空襲により、中島飛行機半田製作所をはじめ、市内でも大きな被害を受けた。終戦から80年が経過した現在、街中の様子は大きく変わり、戦争の傷跡を見ることはほとんどない。また、半田空襲や戦時中に発生した昭和東南海地震の体験者も少なくなり、当時の記憶や記録を伝えていくことが難しくなっ

	いる。 本展では、これまで博物館が収集してきた様々な戦争関係資料を展示し、当時の半田市の様子や戦時下の暮らしについて紹介し、失われてゆく戦争の記録などを知っていただき、改めて戦争と平和について考える機会を提供できればと思っている。 期間中の6月29日（日）には、半田空襲と戦争を記録する会による記念講演会を開催し、半田空襲や昭和東南海地震による被害、食糧難に苦しんだ当時の生活等についてお話いただく。 ⑦古文書の講座は、これまで初心者向けの「やさしい古文書講座」と、中級者向けの「古文書講座」を、それぞれ年1回開催してきたが、1回の講座では中々身につかないため連続した講座を開催して欲しいとの声があり、今年度初めての試みとして全6回の連続した講座を開催し、勉強会形式で古文書をじっくり学んでいただこうとするもの。 博物館専門員が講師となり、資料に記載の日時・時間・定員等で行う。
■各課からの事務連絡 （学校教育課）	（学校教育課長） 学校教育課から、この場をお借りして一件ご報告申し上げます。市内中学校で、個人情報の不適切な取扱いがあった。 概要は、市内中学校1校において、一定期間、個人情報が生徒用端末でアクセス可能な状態となっていたことが判明したものです。 経緯等は、3月末をもって転任した教員が、4月1日に転任前の当該校に来校し、校内ネットワークに入り、教員専用フォルダから、ファイル数点を教員・生徒共有フォルダへ移動させた。ファイルの一部に個人情報が含まれていた。結局、それらのファイルの外部持出しは出来なかったが、共有フォルダからファイルが消去されなかったため、生徒用タブレットで、アクセス可能な状態となっていました。5月2日、このことが発覚したため、即刻それらのファイルを消去したという事案。 これらのファイルへのアクセス件数は、発見時の1件を含む合計3件。 個人情報の該当者である卒業生の皆さんへの対応については、学校から近日中に謝罪文を送付する。また、在校生に対しても報告の手紙を送付する。 再発防止については、卒業生の個人情報は、業務上必要なものを除いて、卒業時に全て消去する。また、市内の全ての小・中学校の教職員に対し、個人情報保護の周知徹底を図っていく。 なお、本件については、報道機関に対しても近日中に資料提供させていただきます。
（給食センター）	（給食センター所長） 今年度から開始する終業式の日給食提供についての連絡。

	この試みについては以前からお伝えさせていただいているが、どのような意義をもって実施するのかということを、4月18日に、保護者の皆様に文書により通知した。 1学期の終業式実施後には、満足度やニーズを把握するためのアンケートを行うことを予定している。
(図書館)	(図書館長) 例年行っている図書館まつりを今年も7月5日に開催するが、まだ詳細を調整中のため口頭での報告とし、次回の会議で資料を提示させていただく。6月の市報には掲載される。 また、前回の会議において図書館で課題解決支援コーナーを設置したという報告をしたが、エントランスや館内の様子が載っているチラシを用意したのでご覧ください。こういった形で実施しており、今回はそこから派生して図書館まつりで知多半島農家マルシェ「にこもぐ」を一緒に開催するという流れになった。 (教育長) チラシを見ると、パネルの足元におにぎりやミツバチのイラストが貼ってあるが、これをたどっていったら今回のテーマである農業関係の書架に誘導されるような工夫もされていた。
■教育委員からの意見提言等 (1)	(久米委員) 先生のメンタルヘルスについて、SOSのホットラインのようなものはあるのか。大手企業だとそういったホットラインがあって、いつでも相談できる体制になっていると聞く。 (教育長) 教職員に関しては、県の方に相談窓口がいくつか用意されている。また、半田市教育委員会事務局、知多教育事務所、愛知県総合教育センターなども相談窓口となっており、いつでも何でも相談できる体制はある。 また、教職員のことではないが、先日の東海北陸都市教育長会議において富山市から児童生徒向けの相談窓口に関する報告があった。アプリをダウンロードして、児童生徒用タブレットの待ち受け画面にハートマークの相談窓口アイコンを載せ、クリック一つで相談機関に繋がるようになっている。相談機関から、すぐに「どうしたの?」といったメールが返ってきて、児童生徒の反応を見ながら必要に応じて深掘りしていったりするとのことだった。教職員もタブレットを持っているので、もしかしたら応用できるかもしれない。

教育委員からの 意見提言等 (2)	(堀崎委員) 中学校の授業を見ていて、懸念することがある。それは、授業の最初からグループ学習を始める学級が増えているように感じる。グループ学習を否定するものではないが、先生が指導する訳でもなく単に生徒たちを見ているだけの時間が多いように感じる。少経験者の先生はこれで授業力が上がっていくのかが心配。また、生徒は本当に学力がつくのかも心配している。授業力は、めあてを明確にし、生徒と向かい合っの授業によって上がるもの。ときにはグループ学習もいいと思うが、グループ学習をやる限りには、個別指導案を持っていないといけない。特にグループ学習が多い学校においては、学力が身についているか把握していったほうがいい。個別最適というのはすごくいいことだが、グループ学習は授業力があってこそ効果も上がる。どこかで問題提起して考えていただければと思う。 (主任指導主事) 中学校によっては、セルフ授業で生徒たち自身が考えて進めるといったグループ学習を主で実施しているところもあるので、堀崎委員が感じていることは実態としてもあると思う。一斉授業から完全に脱却するわけではなく、一斉授業とグループ学習のそれぞれを組み合わせることで効果的な教育ができると思うので、そこを履き違えないよう改めて周知したい。 また、それぞれのいいところをバランスよく組み合わせることについてもしっかりと研究していったほしいので、併せて伝えていきたい。 (教育長) 学力がついているのかについては、全国学力検査の結果等を確認し、全国水準や県水準から大幅に低い結果となっていないかなど、関心を持って見ていく。
次回開催等	(事務局) 6月定例教育委員会 日時：6月20日(金) 10時00分～ 場所：半田市役所4階 会議室 401 令和7年度第1回総合教育会議 日時：6月6日(金) 10時00分～ 場所：半田市役所4階 庁議室 (教育長) 5月定例教育委員会を終了する。

〈 閉会 11時00分 〉